

COVID-19 感染拡大に伴う植込み型デバイス診療に関するお願い

日本不整脈心電学会・デバイス委員会社会問題対策部会長 渡邊英一

日本不整脈心電学会・デバイス委員会委員長 安部治彦

日本不整脈心電学会・理事長 野上昭彦

令和2年4月2日

新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大は世界各国に及んでおり、収束の見通しは立っておりません。日本では、都市部を中心に感染者が急増しておりますが、これにより、医療現場が機能不全に陥ると予想されるため、早急な対応が求められております。そこで、学会員の所属する各医療機関での心臓植込み型デバイス患者対応について、下記の通りお願い申し上げます。

1. 不要不急のデバイス手術や外来フォローを回避すること

待機的なデバイス交換手術や、定期デバイスチェック外来など、緊急性が低いものに関しては、可能な限り当面延期を考慮して下さい。これは、立ち合いを行うデバイス企業の cardiac device representatives (CDR)の方に関係する感染波及を減らすためでもあります。さらに、CDRの立ち合いに当たっては、各医療機関において感染予防防具（マスク、ゴーグル、防護服など）を揃えていただくことをお願い致します。

2. 遠隔モニタリングによる長期フォローアップを行うこと

遠隔モニタリングを行っている患者においては、状態の安定している限り医療機関への予定デバイス外来受診日を可能な限り当面延期していただくことをお願い致します。

日本不整脈デバイス工業会は緊急事態（封鎖状態を含む）下で何らかの流通制限が入った場合においても在庫確保と、物流コントロールを通して患者様の安全と安心を第一優先として可能な限りスムーズな納入体制をとることも発表しております。感染収束まで予断を許さない状態です。学会員各位の真摯な対応とご協力をお願いします。